

ハエの発生を防ぎましょう！

ハエは6～7月をピークに8月は若干減少し、秋口に再び増加します。9月以降は、気温や湿度の関係でハエが発生しやすい時期となります。

ハエの発生がもたらす諸問題は・・・

- ・病原微生物等を媒介する。
- ・ハエによる家畜へのストレスが生産性の低下につながる。
- ・農場で働く人が不快である。
- ・消費者から見てイメージが良くない。
- ・周辺住民からの苦情の原因となる等々。

1 発生源対策：こまめな除糞

水分を多く含んだ家畜の新鮮糞や、飼料、溜まった畜舎排水などはハエが好んで産卵するため、頻繁に除糞を実施すること、畜舎環境を清潔に保つことが何より大事です。

毎日～少なくとも7日に1度は完全に除糞を行い、堆肥化や乾燥など適切に処理することが有効です。

2 幼虫対策：IGR剤（昆虫発育阻害剤）の利用など

この時期、卵は半日程度で幼虫にかえるので、幼虫段階での対策が効果的です。発生源となる糞に定期的に散布しましょう。気温が高い梅雨から夏場には1週間間隔で散布しましょう。

また、堆肥の切り返しを行うことにより、堆肥の表層付近にいる幼虫を堆肥の発酵熱により殺虫することが期待できます。

3 成虫対策：殺虫剤やPOB（毒餌）の利用など

殺虫剤はハエがとまる場所に噴霧します。ハエが屋内に入ってくる雨天や夜間の噴霧が効果的です。

また、POBには塗るタイプや固形タイプなど数種類あります。いずれも使用説明書をよく読んで、注意事項を守って使用してください。ハエ取りシート、テープ等も併用しましょう。

ハエの習性等

ハエの雌は1回約100個の卵を産卵。

幼虫は乾燥と高温に弱く暗いところを好む。

成虫は足の裏で味覚を感じて口で舐める。

成虫は仲間の液跡や仲間の死骸に集まる。